

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1475400758
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス
事業所名	バナナ園 生田ヒルズ
訪問調査日	平成22年8月31日
評価確定日	平成22年9月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475400758	事業の開始年月日	平成17年8月1日	
		指定年月日	平成17年8月1日	
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス			
事業所名	グループホーム バナナ園生田ヒルズ			
所在地	(214-0034) 川崎市多摩区三田5丁目9083			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="radio"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成22年7月25日	評価結果 市町村受理日	平成22年10月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	神奈川県指定情報公表センター
----------	----------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

不幸にも認知症という病気を患い、様々な認知症状を抱えながら不安な気持ちで日々を過ごしている方が、スタッフの介護力で此処に居れば大丈夫という安心感を抱いてもらえる施設で有りたいと思います。
 スタッフも入居者様にとっては、終いの住処となるかもしれない場であることを思い、共に歩むことを大事にしています。
 『明るく・楽しく・自由に』の理念。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年8月31日	評価機関 評価決定日	平成22年9月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①経営母体は株式会社アイ・ディ・エスで、新設のバナナ園生田の杜を加え、関連を含め7つのグループホームを展開している。オーナーはグループホーム経営に大きな理想を持ち、その保有するノウハウを生かしてホーム運営を進めている。画一的なホーム運営はせず、施設の長にその運営の自由を与えているため施設長のポリシーが反映された特色あるホーム展開が為されている。ここは川崎市の北部で小田急線生田駅からバスで4駅目の高台の住宅地であり、民家を改良した1ユニットのもので極めて家庭的なホームである。バナナ園のポリシーは9つの「自由の原則」であるが“自分の家だからわがままが言える”ホームを目指している。新管理者は怒らないケアを目指し、たとえ手間が増えても利用者の気持ちを尊重し、寛容に受け入れることに努めている。今までの関係に加え、利用者の生活が伸びのびとした落ち着いた良い雰囲気加わったように思えた。食事は自前のメニューで、衛生に注意し、目楽しく、その人に合った形態で、美味しいものを一緒に買い物に行き、作り・食べて頂くよう心がけている。
 ②地域の町内会、老人会のイベントへの参加、福祉団体スズの会との交流と来訪、昭和音大生の音楽療法のボランティア、近くの中学校の体験学習の受け入れ、2級訪問介護員の実習受け入れ等、近隣とのお付き合いも徐々に増えつつある。入居者、スタッフの安定感から外部からの受け入れも容易になっている。地域包括支援センターが長沢社寿の里地域包括支援センターに代わり、話がしやすい体制が出来つつあり、今後連携を深めたいと考えている。入居時には、利用者にとって「家族の訪問が最も嬉しい」ことを伝え、毎月1回以上は訪問して頂けるよう伝えている。毎月1回は日常の状況をお知らせし、不定期には来訪時に、個人的に具体的な状況をお知らせするようにし、関係を大切にしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	バナナ園 生田ヒルズ
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

1.48E+09

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①「明るく、楽しく、自由に」暮らす。 ②「明るく、楽しく、元気に」働く。 ③みんなで支える「心のケア」。 ケア会議を中心に情報の共有を図る。バナナニュースの配布や買物散歩などで、地域の人々とのコミュニケーションを図る。	理念は、①「明るく、楽しく、自由に」暮らす。(利用者のスタンス) ②「明るく、楽しく、元気に」働く。(職員のスタンス)③みんなで支える「心のケア」。であり、ケア会議を中心に情報の共有を図っている。バナナニュースの配布や買物散歩などで、地域の人々とのコミュニケーションを図っている。制限することを止め、例えば、スカートの丈を少し短くして履いてもらう等、着る楽しみについても奪わないよう努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事（地域清掃等）に参加し、地域交流会や運営推進委員会にも気軽に参加してもらえるように、お誘いしている。 また、入居者の散歩の時は、気軽に挨拶をするように努めている。	地域の行事に参加し、地域交流会や運営推進委員会にも気軽に参加してもらえるように、お誘いしている。また、散歩の時は、近所の方々に気軽に挨拶をするように努めている。近所の方は覚えていてくれ、受け入れて頂き近所の一員となってきた。掃除をしていたら自作の竹箒を頂くなど、嬉しい連帯の例もある。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者のご家庭、一人暮らしのご家庭の情報収集に努めている。気になるご家庭があれば、緊急時は、当ホームに連絡していただけるように電話 番号を大きく書いた 名刺をお渡ししている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で意見はケア会議等での検討課題として取り上げ「サービスの質の向上」にいかしている。	運営推進会議は地域の自治会長・民生委員にはまだご参加頂けず、ご家族を中心として開催している。運営推進会議では、頂いた意見をケア会議等での検討課題として取り上げ、サービスの質の向上に活かしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	多摩区高齢者推進課や介護保険課」の担当者には運営推進会議の報告や相談をしたり、他情報の収集にもあたっている。	多摩区高齢者推進課や介護保険課の担当者に、運営推進会議の報告や相談をしたり、他情報の収集も頂いている。高額医療費・医療費の負担割合の疑問等を具体的に相談し、ご指導を頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	はい。身体拘束の無いケアに取り組み実施しています。	身体拘束の無いケアに取り組み実施している。パナナ園関連の7つのグループホーム及び本部では全グループ横断で研修の充実に取り組み、グループホームの現場ではなかなか研修が持たれにくい倫理、法令順守関連などの項目について集合教育を行い、徹底を図っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外研修会にも参加して勉強し、ホーム内での防止に努めている。また、他事業所やインターネット等による情報収集も参考にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に出席し学んでいる。現在、当ホームでは1名の入居者様が成年後見人制度を活用されている。また将来、生活保護や成年後見人制度が必要になる方のため、準備は常に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書を、ゆっくりと全文読みながら説明をし、疑問点や質問にもわかりやすく答えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情等の意思表示は人格の尊重や自由のバロメーターになるものだと考えられるので、その意思表示が出来るように、接遇や環境には配慮をしている。また、ご家族や後見人が面会に来られた際は、居室やリビングで過ごして頂いている。日々ご家族や後見人の方々は、状況説明を含めコミュニケーションを図っている。	ご家族や後見人が面会に来られた折には、居室やリビングで過ごして頂き、日頃の生活状況を見て頂き、状況説明を含めたコミュニケーションを図るようにしている。利用者、家族等のご意見は真摯費に拝聴し、出来る事は運営に反映するようにしている。日常の様子は毎月、お便りにピックアップしてお知らせしている。往診記録も連絡ノートに残している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案については、いつでも管理者や介護主任が傾聴し即答するか、ケア会議で決定する。	職員からの意見や提案については、いつでも管理者や介護主任が傾聴し、即答するか、ケア会議にかけて決めるようにしている。必要に応じて個人的にも面接を行い、悩み等を聞くように努めている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトの調整、愚痴をまめに聞く、職員間の関係調整等々、ストレスを溜めこまないように配慮し、各自の努力や実績、勤務状況を、賞与や昇給に反映させている。また資格取得支援の勉強会をもち、資格取得時には奨励金を出し、全社的に公表する制度がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社の内外の研修会には積極的に参加する様に指導している。また、研修報告書の提出とホーム内勉強会の講師をしてもらうことにより、情報の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社の内外の研修会や他事業所のイベントに参加して同業者や社内他事業所とのネットワークをつくり、情報交換や交流に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、より多くの情報を本人の口から語って頂けるように配慮した相談面接をしている。例えば①本人の生きてきた歴史 ②家族への思い ③本人の不安・要望など。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等からの相談はいつでもお受けし即答できることは即答している。重要と思われる事柄はケアプランに反映している。また、電話による相談、要望等についても謙虚に対応しコミュニケーションを図り信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人との面接時に、必須事項のアセスメントを行い、後日來園して頂き食事やおやつを召し上がって頂きます。その後「お試し入居」をして24Hの状態を確認した後に入居して頂きますので、ほぼ実態に沿ったサービスを提供している。その後はケア会議をもって更新している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることは、体調や機嫌をみて一緒にしている。また入居者様の出来ない所をサポートすることで、会話が生まれ、笑顔で共感しあえる時間を大事にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様のために、ご家族様の協力は欠かせません。その際には状況を説明・相談し、ご協力をお願いしている。また、地域交流会や家族会や誕生日会には、必ずご家族に参加して頂く様にお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来園はいつでも歓迎していますが、他のことはご家族と相談のうえ対応している。中には以前関係のあったボランティア団体からのイベント参加のお誘いがあり、参加出来るように支援をしたり、逆に当ホームのイベントに参加して頂いている。	馴染みの方の来訪は、常時歓迎姿勢としている。他については、ご家族と相談の上、対応するようにしている。以前関係のあったボランティア団体からのイベント参加のお誘いにて、参加出来るように支援を行ったり、ホームのイベントに参加して頂く等、関係の継続の支援に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が自由にの関わり合えるように、積極的に支援しています。きっかけ作りも職員が間に入っている。また、入居者様同士の距離感にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等によりやむなく退去された方には、お見舞いやその後の事の相談や入居先探しも支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の過去の生き方や生活歴の情報を集め参考にし、希望や意向に沿う様にケアマネジメントに努めている。	ご本人の過去の生き方や生活歴の情報を集め参考にし、希望や意向に沿う様マネジメントするよう努めている。特に意思を表現できない人の思いも、その表情から汲み取り、ICFの考え方に沿って対応に努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、お友達、区高齢者支援課担当者、他施設、病院等から情報を収集しています。その他に、必ず入居前のご自宅に伺い、その方の暮らしぶりや周囲の環境を拝見しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	好みの過ごし方や心身の状態は日々、接遇時や見守り時にチェックしています。有する力は一緒に作業やリハビリをすることにより、有する力の程度を把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おひとりお一人のケアプランはケア会議にてスタッフとすり合わせや確認を繰り返し、多数の視点でケアプランの作成、モニタリングを実施している。またご家族や関係者の貴重な意見や思いも大切に反映出来るように心がけている。	明らかになった利用者の思いや意向を反映し、一人ひとりのケアプランをケア会議にてスタッフとすり合わせ、確認を図り、多数の視点でケアプランの作成やモニタリングを実施している。また、ご家族や関係者の貴重な意見や思いも大切に介護計画を心掛けている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌の情報は、モニタリング&ケアプランの貴重な情報源として活かしているほか、緊急時の対応や主治医の往診など、あらゆる方面で生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に柔軟な姿勢でご本人やご家族の要望に対応支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族さまの意向に応じて支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームは訪問医を受け入れています。ご本人やご家族様からの要望または当方で必要と判断した際は、主治医と相談の上適切な医療を受けられるように積極的に支援している。	ホームでは訪問医を受け入れている。但し、本人やご家族からの要望や必要であると判断した場合は、主治医と相談の上、適切な医療を受けられるように支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医・看護師と24時間対応の契約を結んでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医については上記の通りで、専門病院の方は医療相談室と連絡を取り合い連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問医の指示の下でシフトの変更や人員の増強をし今後の変化に備え、情報の共有と徹底を図る。家族には、訪問医の日時を伝え、直接治療計画や現状の説明を聞くようお願いしている。	訪問医の指示の下、人員体制を配慮し、今後の変化に備えた情報の共有を図っている。ご家族には、直接治療計画や現状の説明を聞くようお願いしている。重度化した場合や終末期になった場合には、医師とご家族、職員の3者で話し合い、方向を決めることにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練時の実施。(半年に1度) 利用者の急変時には緊急連絡網の掲示等。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入社時と消防訓練時に避難ルートや避難方法は確認している。また、近所の方の協力を得られるよう、お付き合いを心がけている。	災害対策について、入社時と消防訓練時に避難ルートや避難方法を確認している。また、近所のお付き合いを心がけ、協力を得られるように努めている。運営推進会議に地域の自治会長・民生委員にはご参加頂けていないので、この面の話し合いはまだ出来ていない。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報使用に関する同意書を頂いていますが、必要時以外での個人情報の公開はしていません。また、プライドやプライバシーを傷つけたり、損ねる様な接遇にならないように注意しています。各居室は入居者の自宅と意識し、出入りは慎重にしている。(本人の許可を取るなど)	個人情報使用に関する同意書を頂いている。必要時以外での個人情報の公開や漏洩はしていない。尊重に関しては、プライドやプライバシーを傷つけたり、損ねる様な接遇にならないように注意をしている。居室の出入りでは、入居者の自宅と認識し、配慮している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人の意思表示を大切かつ優先しております。希望に今すぐに添えない場合は、ご本人の解る言葉でお伝えする努力、また、ご本人との意思疎通がとりにくい際は、ご家族や医療機関とも相談して、利用者本位を基本に支援できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常識的規範としてのルールはありますが、ホームとしてのスケジュールは無く、緩やかな目安で一日を運営しております。全てに於いて入居者様の生活ペースと意思表示が最優先として接遇、環境、そして運営を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容やホーム内衣服と外出用衣服に使い分けている。また、理美容は、ご家族様が対応される場合は馴染みの店に行かれ、そうでない方は、訪問理容で希望の髪型して頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の気分や体調にもよりますが、食器の洗い物・、後片付け等、職員と一緒にいただいています。何人かの方は下膳をお願いしています。食後のコーヒーや紅茶など入居者の希望より、飲み物を提供している。	利用者の体調に配慮し、食器の洗い物・後片付け等、職員と一緒にして頂いている。その方の能力に応じ、下膳もして頂いている。食事メニューは自前で、旬のものを利用者の好みを聞きながら提供している。家庭菜園の成果も食卓に登って楽しい。食事はスタッフも一緒に楽しく食べるようにしている。食後は、コーヒーや紅茶などの飲み物も提供し、食事を楽しむ支援をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない場合は、入居者様の状態や習慣に応じ、牛乳や果物、ポカリスエット、コーヒー、紅茶を摂取して頂き、摂取量や栄養のバランスを確認すると共に個人日誌で記録・管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいを実施。また、訪問歯科医に来て頂き、二人ずつ口腔ケアをお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	寝たきりの方以外は、おむつを使用しないで済む様に、声掛け誘導に努めている。 日中は布パンツ、夜間はリハビリパンツの使用と時間帯や季節によってもまめに排泄の自立を支援している。	排泄について、おむつを使用しないで済む様に、声掛け誘導に努めている。日中は布パンツ、夜間はリハビリパンツを使用し、時間帯や季節によって配慮し、排泄の自立を支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘や下痢の対応朝夕の申し送りや連絡等、個人日誌で管理し、食事の工夫や散歩、お腹のマッサージを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	当ホームでは、開設当初より入浴日の設定がなく、おおむね2回以上/週を目安に入居者様への声掛けやご本人からの希望で入浴をして頂いている。	開設当初より入浴日の設定はなく、1週間に2回以上を目安として、声掛けや本人からの希望に副って入浴をして頂いている。ホームには、2人介助の方、自立見守りの方もいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は食堂の椅子やソファで自由に休んで頂き、夜間は各居室内のエアコンや電気もご本人に好みで使用して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表や内服薬管理ファイルで、いつでも見て確認出来るようにしています。服薬についても手渡しで確実に確認しています。 主治医の往診記録をスタッフ間で共有することで、本人の状態の経過や変化に丁寧に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性の方々には、台所仕事、洗濯、庭の手入れの一部をやられる方が多く、男性の方に庭の手入れ、水撒きなどご自分で時間を見計らってしている方あり。また、以前の職業(華道教授)を生かして玄関・リビングにセンスの良い活け花活かせることを楽しんでいる。。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、個別外出を基本として対応支援している。個別の外出はご家族がいらしゃる方は、ご家族にお願いしている。	現在は、個別外出を基本として支援している。個別の外出は、ご家族がおられる方は、ご一緒をお願いしている。毎週日曜日には散歩、平日は畑仕事や水やりなど外で過ごして頂いている。生田の森の狂言教室に行かれる方もいる。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームは預かり金の中からご本人に買物に行って頂いてますが、数人の方は、ご本人がお金を所持され自己管理されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、24時間ホームの物を使って頂いている。手紙・ハガキについては、ご本人の希望に沿うって投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改装してグループホームとして使用しているので、入居者様にとっては落ち着いた空間になっていると思う。なおかつ、施設風にならない様に、家庭的な生活感のある環境を作る様に努めている。	民家を改装したホームは家庭的で落ち着いた雰囲気となっている。利用者の方々もゆったりと自分の家のように寛いでいる様子が伺える。以前、お花の先生だった利用者が、生き生きと活け花をして空間に季節感を出してくれている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は食堂兼リビングになっており、テーブル席、ソファは入居者様に自由に使って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけご本人の馴染みのある物を用意していただく様に勧めており、居室内は自由に配置する様にしている。	入居時に、出来るだけご本人の馴染みのある物を用意して頂くようにご家族に勧めており、居室は、本人の馴染みのある物と居室内を好みに配置され、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室から食堂&リビング間やトイレ、浴室、階段に手すりを配置して導線を確保すると共に、職員による声掛け、見守りにて安全を確保している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

バナナ園 生田ヒルズ

作成日

平成22年9月24日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	元来近所付き合いの少ない住宅街にある施設の為、挨拶程度のお付き合いはあるが、なかなか施設の中まで入って来られない。	ご近所の方が気軽に施設内に立ち寄って頂ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関の扉は出来るだけ開放する。 ・挨拶、声掛けは必ず当方からする ・行事のある時は参加する 	H22.9月～H23年8月
2	4	地域の自治会長、民生委員にご挨拶に行くが受け入れてもらえず。地域運営推進委員会にまだ参加して頂けていない。	運営推進委員会に自治会役員あるいは自治会の方の参加を実現させる。	自治会の行事には積極的に参加し、生田ヒルズを認識してもらおう。機会を見つけては、自治会長、民生委員室に挨拶に伺う。	H22.9月～H23年8月
3	13	新施設の立ち上げにより、当施設から人員の移動があり、ヘルパー2級の非常勤職員の人数が減少した。	ヘルパー2級の資格習得と同等の知識技術の習得。	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー2級資格習得の為に時間的・出来れば金銭的な補助。 ・社内外の研修会へ積極的に参加する様に進言する。 	H22.9月～H23年8月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。